

令和7年度 第2回

一関市立赤荻小学校 学校運営支援協議会

期 日 令和7年10月18日(土)

時 間 学習発表会後 ～12:20

場 所 多目的室

【 次 第 】

進行：副校長

記録：地域Co

- 1 開会のことば
- 2 校長挨拶
- 3 報 告
  - (1) 令和7年度赤荻小学校学校経営の進捗状況について
    - ① 学校経営の状況
    - ② 1学期末学校経営自己評価(職員)
    - ③ 1学期末まなびフェスト自己評価(児童)
- 4 協 議
  - (1) 地域との連携について
  - (2) 地域ボランティア活動推進について
  - (3) その他
- 5 閉会のことば

【 第3回：2月予定 】

## 学校運営支援協議会委員

(敬称略)

本協議会役職	ご 芳 名	役 職
会 長	小 岩 郁 郎	学童クラブ運営委員長 スクールガード会長
副会長	菊 地 幸 輝	元学校評議員
委 員	阿 部 邦 弘	元学校評議員
委 員	鈴 木 美樹子	元学校評議員
委 員	金 野 孝 徳	スクールガード副会長
委 員	菊 池 達 也	学習交流館館長
委 員	浅 野 裕 美	主任民生児童委員
委 員	阿 部 徹	P T A会長
委 員	亀 谷 琢	校 長
委 員	渡 邊 隆 子	副校長
委 員	菊 池 淑	赤荻 地域コーディネーター

## 令和7年度の学校経営及び児童の状況

R7.10.18 亀谷

### 1 学校行事等(2学期これまで)

校外学習はじめ、他校交流、外部講師の活用等充実した教育活動の実施ができています。

#### ○校外学習

6年修学旅行(松島・仙台)、5年宿泊学習(健康の森)4年照井堰見学、体験学習  
3年地区内商業店舗、工場見学、2年地区内商業店舗見学、1年遊水地見学

#### ○地区内教育施設との交流活動

赤荻幼稚園・たんぽぽ保育園・赤荻保育園園児、清明支援学校交流籍児童と交流

#### ○外部講師等招聘授業

食育授業(全学年)、5年稲刈り、5年アスリート派遣授業、磐井中合唱部合唱披露会  
今後…4年高専の出前授業、5年自動車工場オンライン見学、6年世界遺産出前授業、  
トーサイクラシック:パーカッション演奏会(全校)

#### ○校外行事

6月25日(水)一関地方陸上記録会 入賞児童多数、大いに活躍した。

#### ○今後の予定

11月6日(木) 一関地方小学校音楽会(4年生出演)

11月11日(火) 校内マラソン大会 ※下水道工事に伴う走路の変更

12月23日(火) 2学期終業式 1月15日 3学期始業式

3月18日(水) 卒業式

### 2 児童の状況

○ 児童は年々全体的に落ち着いてきており、授業や行事に一生懸命取り組む姿が見られる。学年により児童の実態が異なる。

○ 各種感染症や熱中症による体調不良はほとんど見られず、通常の行事や活動を予定通り進めることができています。先に示した学校行事等の取組を通して、社会性の育成、集団力の向上を図る中で、充実感・所属感をもたせることができるよう進めてきています。

○今年度は三つの「あ」(安全、あいさつ・ありがとう)を大切に生活をし、いつでも、どこでも、自分からを意識して全校で取り組んでいる。2学期は校内での「こんにちは」が言えるようになることを重点として進めている。

○全国学力・学習状況調査(6年生 R7.4月実施)の結果

<調査正答率> 全国比 国語 95.8 算数 89.6 理科 94.5

課題は「文章の内容を捉える力」や「考えを説明する力」など

### <質問紙調査>

「将来の夢や目標をもっていますか。」肯定的な回答 88.6%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」肯定的な回答 97.7%と全国を上回る、同等と高い回答となった。

反面、平日家庭で1時間以上勉強していると答えた児童 45.5%と全国・県を下回っている。

#### ○不登校・問題行動

不登校・登校不安 7名 内回復傾向にある児童 4名

担任を中心に、複数の教師や支援員等で連携して対応している。

#### ○問題行動

・槻本公園、要津院参道下公園での遊び方、ごみの不始末、看板損壊 2件

・親の財布から金銭を盗り、コンビニ、ドラッグストアで菓子等購入し、仲間に振る舞う。 1件

#### ○いじめ

軽微な事案であっても、いじめ対策委員会を開き、対応等を検討し、組織対応している。

いじめ認知 6件

・わざとぶつかる、威圧的な態度をとる 4件

・避ける、暴言 2件

### 3 施設・設備の状況

○灯油配管、灯油地下タンクの不具合により、一時暖房ヒーターの使用不能状況あり。

→ 教育総務課より、業者決定し9月以降に工事实施の連絡を受けているが、未施工。

○2階トイレ増設(従来のトイレの隣に、男女各トイレが1スペース増える)

→ 本校 PTA の要望から増設に至る。11月から工事開始、年内完了予定。

○電話対応機器が設置されます。

→ 働き方改革の一端として市教委により、電話機に勤務時間外(18時～翌朝7時30分：市教委方針)の自動音声応答機能が追加されます。

【総括】 学校自己評価: 1 学期末

学校経営の重点	Plan		Do & Check		Action	
	具体的取組	達成目標(指標)	取組の実際と現状	点(%) [R6]	今後の取組	
1 豊かな心を育む教育の充実	(1) 学年・学級経営の充実	<p>ア 実態把握、居場所づくりと絆づくりを重点とした教育活動の実施</p> <p>イ 学年・学級が足並みそろえた「赤小スリー」「赤小8のきまり」の徹底</p> <p>ウ ふれあいと寄り添いによる子供との信頼関係づくり</p>	<p>・100%実施</p>	<p>・行事が重なり忙しかったこともあり、居場所作り、絆づくりについては十分にできなかった。</p> <p>・相手の立場に立って考えるよう指導し、間違っただけで責めるだけではない共感的なコミュニケーションを意識させることができました。一方で赤小8のきまりについて触れる場面が少なく、チャイム時に机上が整っていないなどの課題もありました。</p> <p>・ア 学習や生活の様子、友達とのかかわり方など実態把握に努めた。</p> <p>イ 学年として「赤小8のきまり」の指導を日常的に行い、意識づけを図った。</p> <p>ウ 信頼関係はある程度作れたと思うが、心情にしっかり寄り添うことができなかった面もあったと思う。</p> <p>・行事や生活面での問題について、学年で話し合いながら、少しずつ改善することができた。</p> <p>・学級遊びを通してふれあい仲良くなる。運動が苦手な子ども、鬼ごっこなどで楽しく活動</p> <p>・研究・生徒指導からの適時適切な提案により、全体の方向性がそろって取り組むことができています。学年で細やかに共有し、必要に応じて組織で連携し速やかに問題行動等の改善を図ることができたと思う。</p> <p>赤小8のきまりを中心に上学年を見本として、頑張ろうとする態度が見られるし、守れるように声かけができていたと感じる。</p> <p>きまりの徹底が厳しかった。</p> <p>挨拶や時間を守ることを中心に指導した。行事や係活動の取り組みと認め合いで達成感を持たせることができた。</p> <p>自己中心的な、言動が目立ち、ルールが守れず、確認しながら進めてきた。落ち着いて学習することができなかった。</p> <p>教育相談をしたり、子どもたちの様子を観察し、こまめに声をかけた。持ち上がりということもあり、子どもたちの実態を把握しながら接することができた。</p> <p>赤小8のきまりにないから、という理由で、よくない行動をしている児童がいる。</p> <p>児童の様子の変化に気づき、よく働きかけをしている</p>	<p>2.80 (70.0) [2.0]</p>	<p>・忙しいなりに児童とコミュニケーションをとる方法を考えていきたい。</p> <p>・机上が整っていない・落とし物が多いといった課題があるため、チャイム席や休み時間は机の上に物を置かないことの細かな声かけを続けて習慣化させていきたいと思えます。</p> <p>・実態把握を基にした、指導に有効な手立てを工夫・研究し、より児童の力を伸ばす教育活動に努める。</p> <p>・「できない」「やれない」「わからない」の心情に寄り添った指導を工夫していく。</p> <p>・赤小8のきまり 「5 腰骨を立てて、姿勢を正しくすわりま</p> <p>す。」</p> <p>・未然防止の視点を重視した対策を考えたい。</p> <p>・居場所づくりやふれあいと寄り添いを授業以外でも作りたい。</p> <p>・その都度きまりを確認したり、1週間で頑張ることとして、赤小8のきまりを入れたりする。</p> <p>・学級全体が、達成感を感じるような、めあての取り組みや手立てを考えていきたい。</p> <p>・学年集会・学団集会をする機会が少なかったため、2学期は増やしたい。</p>
	(2) 心を育てる教育の推進	<p>ア さわやかな挨拶や元気のよい返事の指導</p> <p>イ 協力して時間いっぱい、隅々まで清掃の指導</p> <p>ウ 教職員の率先垂範の実施</p>	<p>学校生活についての児童アンケート</p> <p>「学校が楽しい子ども」A反応80%</p> <p>・学期評価100%</p>	<p>・挨拶運動等があった時は、比較的元気に挨拶できている。</p> <p>・1,2年時の指導の積み重ねのおかげで、教室に入る時に挨拶をする、挨拶を返す子どもが多いです。体調不良以外の欠席もほぼなく、楽しそうに学校に行っていると保護者の方からもお話しいただくことができました。一方で清掃時には、真面目にやる子とそうでない子といるため、まだ課題が残ると感じています。</p> <p>・挨拶・返事・清掃指導のどれも率先垂範を心がけて行ったが、清掃は児童によって個別指導が必要なこともあった。</p> <p>・時間の確保が難しく、業務が滞ってしまうことが多かった。</p> <p>・先生方が一緒に掃除をして指導してくださっている。そのおかげで掃除をがんばる児童が多いのだと思う。これからも続けていけるといい。</p> <p>・元気のよい返事は昨年より増えてきたように感じる。掃除も縦割り班の時のほうがすみずみまで掃除できているように感じる。</p> <p>・常に明るい挨拶をするように心がけた。きちんとできないときは子供たちにやり直しをさせた。</p> <p>・教室の入ってくる時の挨拶ができるように指導した。挨拶する子が、増えてきた。返事がしっかりできない。言葉遣いも含めて指導してきた。</p> <p>・挨拶や返事をクラスのきまりとして意識付けし、取り組んだ。</p> <p>・授業のはじめ・おわりの挨拶の様子には学級ごとに大きく差があると感じる。</p>	<p>2.93 (73.2) [2.0]</p>	<p>・自分から進んで爽やかな挨拶ができるようにしていきたい。</p> <p>・清掃の分担や場所をしっかりと確認し、自身の役割を果たすよう指導したいと思えます。</p> <p>・元気な返事と挨拶の指導を継続する中で、場に応じた声の出し方も考えさせていく。</p> <p>・清掃用具の使い方などを確認し、必要に応じて個別指導をする。</p> <p>・静かに時間いっぱい清掃ができるように、率先して清掃する姿をみせる。</p> <p>・挨拶の大切さについて、工夫して伝えてみたい(自分の取組として)教師が遅れないように心がけたい。</p> <p>・挨拶の気持ちのよさについて、言葉遣いについて、自分の姿をふりかえさせていきたい。</p> <p>・毎日の掃除の時間に率先垂範することができませんでした。掃除の時間も子どもたちと一緒に取り組めるようにします。</p> <p>・朝以外に校内で会った人に対して挨拶がまだできていない様子が見られるので、2学期はいつでもできるようにしたいです。</p>
	(3) 道徳、特別活動指導の充実	<p>ア 考える道徳・議論する道徳の充実</p> <p>イ 道徳教育推進教師を中心とした実践</p> <p>ウ 集団における人との係わりを通した自己有用感の育成</p>	<p>学校生活についての児童アンケート</p> <p>「学校が楽しい子ども」A反応80%</p>	<p>・道徳の授業では、できるだけ多くの子の考えを交流できるように心がけた。</p> <p>・出た考えを否定せず認めるよう意識したことで、学習が苦手な児童も積極的に発言するようになりました。</p> <p>・道徳の授業においては、T2としてなかなか自分の意見を持ってなかったり、書けなかったりする児童の支援を行った。</p> <p>・係や当番の仕事、班内での役割を頑張っている児童に対して頑張りを認める声掛けをし、自己有用感の育成に努めた。</p> <p>・学級、学年でどのように人との付き合い方を考えさせる機会を作った。</p> <p>・学級を集団における人とのかかわりを学ぶ場として、トラブルを集団作りに生かす姿勢があり素晴らしいと思っている。</p> <p>・自己有用感の育成がまだ曖昧。道徳の実践がまだ自分では足りないと思う。</p> <p>「議論する」までできていない。</p> <p>・ほぼ計画通りに進めることができた。一人1発言を心がけた。</p> <p>・授業、普段の生活の中で、行動をふりかえながら考えさせるようにしてきた。</p>	<p>2.73 (68.2) [2.1]</p>	<p>・今後も出た意見を認めていくとともに、いい考えは児童同士や教師の方で価値づけるようにしていきたいと思えます。</p> <p>・授業時間のみならず、日常生活の様々な場面で集団における人とのかかわりについて、どのようにすればよいかをスモールステップで考えさせていく。</p> <p>・これからもその姿勢を大切にしていきたい。</p> <p>・道徳を学習する場を欲しい。自分でも進んで道徳の授業を考えられるようにしていく。</p> <p>・道徳について自分自身の勉強が必要。</p> <p>・「言葉のもつ意味」について、思いやりについて、学級全体、個人的に働きかけていきたい。</p> <p>・議論する道徳にまで至っていないと感じます。意見を活発に話すようになってきましたが、議論まではできていないので、学びが深まるように発言を吟味していきたいです。</p>

【総括】 学校自己評価: 1 学期末

2 授業の充実と「主体的・対話的で深い学び」を通じた確かな学力の育成	(1) 「授業改善パンフレット」やICTの効果的活用等による授業実践	ア 児童と教師及び児童相互の対話を通して学びを深める授業の実践 イ 思考を促す発問や資料提示、構造的な板書、ICT活用による授業実践 ウ 指導力向上につながる日常的な実践交流とOJTの推進	・ 100%実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特支として、何を重視するか、どのような指導法がそれぞれの児童に効果的なのか、といったことが手探り状態であり、学びを深める授業実践は難しかった。</li> <li>・ 2年生としては、日々の授業実践の中でOJTを心がけた。</li> <li>・ 対話を意識した授業がなされていると感じる。</li> <li>・ OJTの推進を意識した実践交流も各所で頻繁に行われているのもよい。</li> <li>・ 対話を意識して行っている。だが、まだ時間の管理ができていない。</li> <li>・ ICT活用がなかなかできなかった。2学期はもっと意識した授業をしていきたい。</li> <li>・ 自分の考えをもつことはできるようになってきたが、最後まで話せるようにはなっていない。</li> <li>・ <b>児童の意見から授業を展開できるように、単元の導入を工夫したり、振り返りを活用したりすることができました。</b>ロイロノートやCanvaを活用することができました。</li> <li>・ <b>児童の発言やつぶやきから、課題やまとめを構成</b>していくようにしている。</li> <li>・ 児童同士の対話が積極的に行われるようにしている。</li> </ul>	2.80 (70.0) [2.1]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後もロイロノートを活用する教科や時間を増やし、教師も児童もICTに慣れていくようにしたいです。</li> <li>・ 校内研などでタブレット活用場面の共有やまなびポケットにあるアプリ（キュビナ等）の使用法についても指導して頂き、授業場面で活用できればと思う。理解につながる具体的な資料の工夫、ICT活用、支援の手立てなどを自分自身がさらに学び、力を伸ばせる授業を行っていく。</li> <li>・ <b>負担感ではなく、気軽に交流しあえる雰囲気を作れたい。</b></li> <li>・ <b>自分の考えを表現することへの抵抗感を減らせるような場の設定が必要。</b></li> <li>・ ICTの活用による授業実践に積極的に取り組んでいくこと</li> <li>・ 日常的な実践交流ができなかったため、2学期は学年で学習に取り組むなどの工夫をしていきたい。</li> <li>・ CT活用がむずかしい。</li> <li>・ <b>タブレット学習（eライブラリ、キュビナ等）がどの程度学力向上に役立つのか…</b></li> </ul>
	(2) 学力向上に向けた日常実践と習慣	ア ことばの力を育てる教育と陰山メソッドの実践（読み・書き・計算）継続 イ 計算オリンピックの継続実践と習熟プリント（下学年まで遡る）を活用した2極化の解消 ウ 確かな学力の定着化を目指し、授業と連動した家庭学習の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 80%実施</li> <li>・ CRT全国比105, 算105</li> <li>・ 家庭学習（学年×10分以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟プリントの活用がなかなかできなかった。</li> <li>・ 国語の時間のはじめに国語辞典を引く活動を取り入れ、語彙を増やすようにしています。一方で100マス計算をする時間をあまりとれなかったことが課題です。</li> <li>・ 児童の実態に応じた内容や分量の100マス計算、計算オリンピック、漢字練習などに取り組むことができた。家庭学習も、取り組み方が理解できるような形で進めた。ただ、漢字の習得や長さの単位などの理解は非常に難しかった。</li> <li>・ <b>100マス計算・漢字5問テスト繰り返し行うことで、タイムが縮んだりできる問題数が増えた。</b></li> <li>・ 組織的に計画的に取り組まれていてよい。ベースがきちんとそろっているため検証もしやすい。「宿題が早く終わったからプラスで勉強する」とはならないので、学年×10分以上はできていない。</li> <li>・ 計算オリンピックは数回練習して合格できるような取り組み方をした。授業と連動した家庭学習を進めた。</li> <li>・ 今年度は100マス計算を3日間連続で取り組んでいるので、計算が速くできるようになった児童が増えました。</li> </ul>	2.87 (71.7) [2.2]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語辞典を引く活動は児童も楽しんでやっており、言葉と出会うきっかけになっていると感じているため続けていきたいです。100マス計算も週に1回は必ず取り組むようにし、児童の計算力や集中力を上げていきたいです。</li> <li>・ 引き続き実態に応じた内容や分量の配慮だけでなく、<b>学習意欲を高める手立ての一つとして興味関心を持った内容を提示することにも取り組んでいく。</b></li> <li>・ 小数やわり算の筆算の学習の定着と漢字の読み書きができるように習熟プリントに取組</li> <li>・ 継続</li> <li>・ 今後も継続していく。</li> <li>・ <b>2極化の解消になるような手立てを組むことができなかったため、2学期は下位の児童への手立てを考えていきたいです。</b>できるかぎり継続！</li> </ul>
	(3) 100マス作文の継続と読書活動の推進	ア 100マス作文の継続実施 イ 読書目標冊数の設定と家庭読書の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100%実施</li> <li>・ 1学期目標冊数 低学年 25冊以上/ 中学年 20冊以上/ 高学年 15冊以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス全員が、目標冊数を達成することができた。</li> <li>・ 特に読書活動の推進について、国語の授業で図書室を活用したり、<b>学級文庫を本の表紙が見えるように配置</b>したりと、児童が本に親しめるようにしています。児童もとてもよく読書をしているのですが、学級文庫で読んだ本をブックカードに記入していなかったため目標冊数に届かなかった児童が複数いました。</li> <li>・ テーマに沿った100マス作文が<b>書けるように個別指導</b>をしてきた。</li> <li>・ 読書目標冊数は全員達成することができた。</li> <li>・ 学級で図書室に行く時間の確保</li> <li>・ 組織的に計画的に取り組まれていてよい。<b>ベースがきちんとそろっている</b>ので検証もしやすい。</li> <li>・ 全員が読書の目標冊数を達成することができなかったため、2学期の課題にしたい。</li> <li>・ 読書が好きな児童が多く、たくさん本を読んでいた。読書会社の<b>児童が毎週読み聞かせてくれることも楽しみに</b>していて、クラス全体で本に親しむ様子が見られました。</li> <li>・ 授業中にも図書室を利用している学級が多いと思う。</li> <li>・ すきま時間の読書のとき、読む本がないという児童がいる。</li> </ul>	3.60 (90.0) [2.5]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も同様に活動を続けていきたいと思います。またブックカードに記入するよう声がけしていきたいです。</li> <li>・ 個別指導を続けながら、100マス作文に取り組んでいく。</li> <li>・ <b>いろいろなジャンルの本を読んでみるよう、声掛け</b>をしていく。</li> <li>・ 進んで図書室に行く習慣づくり・声掛け</li> <li>・ 継続</li> </ul>

【総括】 学校自己評価: 1 学期末

4 健康教育の推進・体力向上と安全指導	(1) 保護者と連携した基本的な生活習慣の確立	ア 早寝、早起き、朝ごはん、むし歯予防の推進 イ 食育指導の推進とメディアコントロールの取組 ウ 病気予防のための保健衛生指導と治療勧告促進	・メディアチェック学年目標達成割合 73%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も特に食育、虫歯予防、メディアコントロールについて継続して指導していきたい。</li> <li>・生活リズムの乱れとメディアコントロールの関連性がある子供たちなので、保護者と連携しながら生活リズムを整えていく。</li> <li>・衛生面の指導を継続していく。</li> <li>・元気いっぱいカードを今年度改善を試みたが、どうだったか検証し、よりシンプルな集計方法になるよう改善したい。</li> <li>・保護者との連携ができていない部分とまだ必要な部分があると感じる。</li> <li>・ゲーム上でのトラブルがあり、学校生活にも影響していることがあったので、家庭と連携しながらメディアとの付き合い方を考えていきたいです。</li> <li>・残食を減らしたい</li> </ul>	2.87 (71.7) [2.1]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の様子から家庭での過ごし方を確かめ、生活リズムや朝ごはんについて指導をした。必要に応じて、連絡帳で保護者に連絡をして連携を図った。</li> <li>・衛生面の意識が低いので、ハンカチやティッシュを使うことや、汚さないこと、石鹸での手洗いをすることなどを指導したが、まだ十分とは言えない。</li> <li>・訓練関係は、スムーズなやりとりができるよう改善を試みる事ができた高学年になるにつれて、早寝・メディアの面の課題が大きくなっている。</li> </ul>
	(2) 体力向上を図る取組	ア 運動量の確保と指導の工夫、教科体育の充実 イ 荻っ子マラソンの取組やなわ跳びの取組 時期や取組み方の工夫 ウ 体力テストの実施と外遊びの奨励	・「元気いっぱいカード」目標達成割合 75%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も続けていきたいと思えます。体育の授業では、苦手ゆえに授業に参加しない児童もいたので、肯定的な声かけで励まし、なんとか参加するように促していました。</li> <li>・体育の授業等での指導継続に加え、荻っ子マラソンへの積極的な取り組みを進めていく。</li> <li>・2学期は縄跳び・マラソンの練習に取組む(体育)</li> <li>・元気いっぱいカード には該当する項目がないので、達成基準を再考する必要がある</li> <li>・外遊びの推奨はできていると思う。メディアのコントロールの話は随時必要だと感じる。</li> <li>・運動量の確保が課題。</li> <li>・家庭と連携して、基本的な生活習慣が確立できるようにしていきたい。</li> <li>・企画会社を中心となってクラス遊びを企画し、体を元気に動かす様子が見られました。</li> </ul>	2.93 (73.2) [2.4]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に遊ぼうデーを作り、一緒に外遊びや体育館での遊びをすることで、普段教室で遊んでいる子も運動する機会を作るようにしました。</li> <li>・体育の時間での運動量確保や休み時間の外遊びや体育館遊びの奨励を行った。</li> <li>・体力テストに向けての練習も行い、やり方を理解して実施できるようにした。</li> <li>・レクタイム・昼休みは外遊び(体育館)をする習慣が身についている。</li> <li>・児童はよく遊んでいてよい 朝から外で遊ぶことが習慣になっているのがよい</li> <li>・教師もレクか昼は一緒に遊べるようにしていきたいです。</li> <li>・外遊びをしている児童が多くて良い。</li> </ul>
	(3) 安全指導の取組	ア 防災教育の充実により、身の安全を守る意識、危険を回避する判断力・行動力の育成 イ 日常的な安全指導と施設・設備の安全点検による学校事故の未然防止 ウ 保護者・地域との連携を図り、通学路の見直しも含めた安全対策を整備することによる交通事故防止と不審者対策の強化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いきるかわるそなえる」を読む機会を増やし、自身の東日本大震災の経験を話すなどして震災が身近にあることを感じてほしいと思えます。</li> <li>・よく考えない行動が危険を招く場面が見られるので、日常的な安全指導を強化していく。</li> <li>・保護者の防災意識を高める</li> <li>・日常的な安全に対する児童の意識を高めていく。</li> </ul>	3.07 (76.7) [2.3]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の心構えを伝えたり、教室内の安全点検をしたりしています。一方で「いきるかわるそなえる」を読む機会を取れなかったため、そこは課題だと感じています。</li> <li>・避難訓練、集団下校訓練、引き渡し訓練、実際の引き渡しなどを通して、児童自身の安全面への意識向上を図り、教員側としても役割分担や臨機応変な対応について考える事ができた。</li> <li>・訓練関係は、スムーズなやりとりができるよう改善を試みる事ができた避難訓練や引き渡し訓練などを通して、身の安全を守る意識や危険を回避するための判断力を養う事ができた。</li> <li>・7月9日下校時の雷雨、引き渡し訓練が活かされた面もあり、混乱した面もあり。天候不良での引き渡しは日常的にあり得るので、よりスマートな方法を用意しておかなければならない。</li> </ul>
5 不登校・いじめの未然防止	(1) 不登校・いじめ未然防止	ア 日常の児童観察や対話、保護者との情報交換による個の実態把握 イ 子どもの居場所づくりと絆づくりを目指した学年・学級経営と交流活動の推進 ウ 生徒指導研修会(年4回)での実態把握・共通理解の実施 エ 生活アンケートとその後の教育相談の確実な実施とその対応 オ 発達段階に合わせた情報モラル指導の実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が感じたもやもやはその場で聞いたり、放課後や昼休みに聞いたりしてもやもやを抱えたまま帰らないよう気をつけています。</li> <li>・日常の児童観察により、いじめ未然防止となるような指導をすることができた。居場所や絆づくりについては、児童によっては不十分だったかもしれない。</li> <li>・生活アンケート記入後に全児童との面談を行った。4月に学年集会を開き、情報モラル(オンラインのゲーム)について共通理解を図った。</li> <li>・不登校別室だった児童が、登校し学級に入っているのがすばらしい。学級の雰囲気づくりの成果が表れている。</li> <li>・学校生活アンケートをもとに個々の児童と話す機会を設ける事ができた。</li> <li>・学団集会を行ったり、リコーダーを教えたりと学団での交流ができました。</li> </ul>	2.93 (73.2) [2.3]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も傾聴を続け、場合によっては当事者同士で話し合う機会を設けることで、お互いが納得し、また関係を築けるようなコミュニケーション力を育成していきたいです。</li> <li>・指導の継続とともに、褒めたり、働きを認めたりして、居心地のよい居場所や絆づくりに努める。</li> <li>・第2回生活アンケート記入後に全児童との面談</li> <li>・個人面談をどの学級も全員と行うことを続けていかなければならない</li> <li>・学年・学団での交流活動をより増やしていきたいです。</li> </ul>
	(2) 報告・連絡・相談の徹底と組織的な対応	ア 報告・連絡・相談をできるだけ早く、確実に行う。 イ 生徒指導委員会の組織による適切な対応		<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動や保護者からの要望などに対して、素早く対応することができ、大事に至らなかった。</li> <li>・おおむねよいが、文書提出に関して、報告を徹底したい。</li> <li>・生徒指導主事を中心に情報を共有し、組織的な対応ができていたと思う。</li> <li>・生徒指導に関しては、職員同士で情報共有ができていない部分が多いと思う。</li> <li>・こまったらどんどんヘルプを出して、学校全体で対応できるようにしていきたい。</li> </ul>	3.33 (83.2) [2.6]	
	(3) 「いじめ防止基本方針」の徹底と生徒指導事例研等を使用した情報交換	ア いじめ認知に関する手続きの確認・徹底と『いじめに関する事例研修会』の開催 イ 保護者向け「いじめ防止基本方針」の見直しと周知の実施 ウ SOSの出し方、受け止め方に関する指導の実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の情報交換を通して、気になる児童について共通理解を図って対応することができた。</li> <li>・子供たちにいじめは許さないことを指導した。</li> <li>・今後の取組</li> </ul>	2.73 (68.2) [2.2]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き情報共有をしながら対応をしていく。</li> <li>・「いじめに関する事例研修」を通して、いじめについて理解を深めていきたいです。</li> </ul>

【総括】 学校自己評価: 1 学期末

3 特別支援教育の充実	(1) 特別支援体制の充実	<p>ア 通常学級における効果的な支援の在り方についての研修を深め、教職員が連携しながら児童の特性に合った支援を組織的・計画的に行う。</p> <p>イ 保護者、医療機関、就学前や卒業後の各施設及び学校、市教委の専門家チーム等との連携を深めながら情報交換を密にし、長期的見通しをもった支援体制の構築</p> <p>ウ 特別支援コーディネーターを中心とした校内就学支援委員会、校内特別支援委員会等の計画的運営（校内委員会月1回、情報交換会は状況に応じ実施）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援級の児童を特別扱いすることのないよう留意しています。また個別に支援が必要な児童については細かな声かけや休み時間の補修を通し、学習に遅れることのないようにしています。一方で情緒に極端な不安定さがある児童に対して、授業への参加を保証できていないという課題があると感じています。</li> <li>特別支援教育について、校内で会議を持てたことで、<b>長期的見通しについて考える</b>ことができたと。</li> <li>外部とのつながりを構築していきたい</li> <li>実態把握はできてきたが、詳しい計画がまだできないので、これから相談し考えていきたい。</li> <li>個別指導が必要な児童に時間をかけてあげられていない。</li> <li><b>普通学級にいる支援が必要な児童への手立てがうまくできなかった。</b></li> </ul>	<p>2.67 (66.7) [1.9]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは学習活動以外で45分間立ち歩かないこと、大声や大きい物音を出さないことを意識づけ、また動的な学習活動を増やすようにしたいと思っています。</li> <li>情報交換を密にしながら、計画的な指導をしていく。</li> <li>保護者の理解を得て、本人たちのためになる支援をしていく。</li> </ul>
	(2) 児童理解をもとにした環境整備と情報共有の充実	<p>ア 校内での情報提供の定期的実施と児童理解の組織的な推進</p> <p>イ 基本的な生活・学習環境の整備や、合理的な配慮を大切にされた支援の充実</p> <p>ウ 様々な学校・学級の児童及び保護者や指導者等との交流の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板の周りには掲示物を貼らないなど、児童が集中できるような環境整備を心がけています。</li> <li>環境整備の部分では、<b>合理的配慮</b>を大切にできるのではないかと感じる。</li> <li>教室にずっといられない子どもへの手立て、学級への支援など、ケース会議などを開いていただき、一緒に児童の理解に努めていただいた。</li> </ul>	<p>2.87 (71.7) [2.3]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室がせまく、掲示物をあまり貼ることができないのですが、学習したことを形にして残していきたいと思っています。</li> </ul>
6 保護者・地域との連携協働	(1) 保護者・地域との連携・協働のため学校行事などの機会をとらえた情報交換の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>校報、学年・学級通信等の発行</li> <li>メール一斉配信による迅速な情報発信</li> <li>○学校運営支援協議会委員及び地域人材の活用と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年・学級通信については発行できた。</li> <li>月予定の全校で一括の部分は、まだ周知できていない部分があるが、一斉配信をこまめに行っていただけて助かっている。</li> <li>集団下校や引き渡し訓練などメールで答えてもらうことによって、集計などの負担を軽減することができた。</li> </ul>	<p>3.27 (81.7) [2.7]</p>	
	(2) 学校だよりやPTA広報、学校ホームページを通して広く情報発信を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>まなびフェスト、学校要覧等の配布</li> <li>PTA総会、学年懇談会、個別面談、地区懇談会等での課題共有と保護者との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新が滞ってしまった。</li> </ul>	<p>3.13 (78.2) [2.4]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事ごとにしっかり更新する。</li> </ul>
	(3) 学校運営支援協議会制度の実施に合わせて組織体制づくりと地域人材の活用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールガードの方々への挨拶</li> <li>地域の方々（学習でお世話になった方々）への感謝の表現</li> <li>学校評議員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習でお世話になった方々へ感謝の手紙を書くことができた。</li> <li>スクールガード集会で、挨拶ができよかった。</li> <li>スクールガードの方の紹介式があったことがよかったと思います。</li> </ul>	<p>3.13 (78.2) [2.4]</p>	

【総括】 学校自己評価: 1 学期末

7 赤荻小学校をより向上させる取り組み	(1) 児童が主体的に高め合い、認め合い、深め合う活動の充実	☆表現朝会 ☆縦割り班活動や遊び ☆学年・学団行事やイベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除以外にも、縦割り班で七夕集会という楽しい活動ができてよかった。</li> <li>・表現朝会での各学年の工夫された発表 発表に対しての感想発表</li> <li>・班活動は掃除を通して、高め合いや認め合いが見られている。七夕集会もいっしょになったと感じる。</li> <li>・やらされている感があることが多かった気がする。</li> <li>・児童が主体的に高め合ったり、認め合ったりするために表現朝会や縦割り班活動はよい活動だと思う。</li> <li>・縦割り班を活用した取り組みができてよかった。そうじのための縦割り班で終わらず、縦のつながりの中で児童を成長させていきたい。</li> </ul>	2.80 (70.0) [2.2]	・縦割り班遊びを企画し、学年関係なく交流できるようにしていきたいです。
	(2) 学団運営体制の充実、専科指導・交換授業、OJTによる組織的教育力の向上	・学団や分掌間での情報共有と連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上大会や運動会等の行事を学団で相談・協力しながら取り組むことができた。</li> <li>・今後1クラスの学年が増えていくことを考えると、学団での運営はどうなのか(全校体育、全校音楽など)。負担が大きくなるのではないかな。</li> </ul>	3.27 (81.7) [2.4]	
	(3) 校務分掌の見直し等による職務内容の整理・削減を行い、各々の役割と責任を明確にした職務の遂行	・高学年の負担軽減、必要な職員定数確保、勤務時間外の対応等の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌については、見直しが必要である。高学年の負担軽減は、ほとんど感じられない。</li> <li>・校務分掌にやや偏りがあり、負担の大きい先生がいるのではないかな。</li> <li>・取り組みによっては集中することが出てきていて、削減できているものとまだ検討が必要のものもあるように感じる。集団下校等</li> <li>・分掌によって仕事量の差があるように感じる。高学年の空き時間は負担軽減のための時間だと思うので、しっかり確保する必要があるのではないかな。1クラスの学年はそれも1つ分掌と考えてほしい。</li> </ul>	2.43 (60.7) [2.4]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何のための空き時間なのか、よく考えていただきたい。</li> <li>・校務分掌をさらに見直して削減を進め、負担を減らしたい。</li> <li>・業務の偏りがないような校務分掌の見直しが必要。</li> <li>・仕事量が同じになるような職員の分掌配置を考えてほしい。木曜日の時程は前年度のまでのような(朝活動、掃除なし)がよい。研究会、職員会議、職員集会で退庁時刻までに終わらないため。</li> </ul>
	(4) 学習支援ボランティアなどの地域教育資源の活用により、地域に開かれた持続可能な教育環境・教育体制づくりの推進	・地域教育資源の活用 ・開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティアさんのおかげで、交通安全教室や校外学習を安全に行うことができた。</li> <li>・5年生家庭科のボランティアは大変助かった。</li> <li>・生活科のボランティア等で、ご協力いただいていたすけていただいた。</li> <li>・地域の皆さまが学校に足を運んでくださる機会も増えているのでありがたい。</li> <li>・ボランティアの方々の協力があってよかった。</li> </ul>	3.13 (78.2) [2.2]	・今後もボランティアなどをよびかけていく。
その他	になったこと等、自由にお書きください(右の欄に)				

【総括】

○重点、具体的な取組、調査方法が変わっているので単純比較はできないが、「重点」はどの項目においても昨年度を上回っている。子供たちの様子に努力、変容、成長が見られ、1学期における職員の指導・支援を肯定的にとらえているものと考えられる。

○2-(3)「100マス作文の継続と読書活動の推進」(3.60)、5-(2)「報告・連絡・相談の徹底と組織的な対応」(3.33)、6-(1)「保護者・地域との連携・協働のため学校行事などの機会をとらえた情報交換の実施」(3.27)、7-(2)「学団運営体制の充実、専科指・交換授業、OJTによる組織的教育力の向上」(3.27)は8割を超える肯定的回答傾向となった。折に触れた個に応じた丁寧な声掛け、読書・作文の機会の確保の継続ができていたものと考えられる。また、主任や学団長を軸として報告・連絡・相談ができる組織的な運営となっているととらえることができる。これらについては、より効果的な手立て、手段を探り、取り入れながらの継続した取組を望む。

●3-(1)「特別支援体制の充実」、7-(3)「校務分掌の見直し等による職務内容の整理・削減を行い、各々の役割と責任を明確にした職務の遂行」は、7割を切る回答結果傾向となった。「特別支援体制の充実について」は、特別な支援、配慮を必要とする子供への指導上の困難さ、手立ての難しさ、支援の時間確保等が挙げられている。画一的なそろえる指導が有効なものか、手立てはどう講ずればよいかなどなど7/28の校内研での講師のお話、助言を通じて学び、2学期実践に向け準備を進めたい。

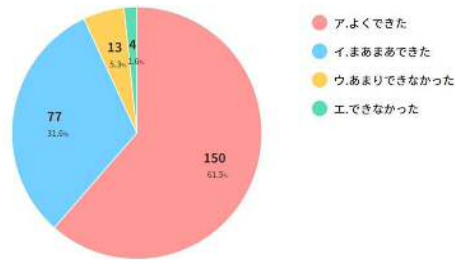
●「校務分掌の見直し等による職務内容の整理・削減を行い、各々の役割と責任を明確にした職務の遂行」においては、校務分掌の見直し、仕事量の不均衡、負担の軽減、生活時程についてあげられた。教育活動全体のバランス調整が必要となるため2学期即変更といかないが、子供が力をつけるための子どもとかかわる時間の確保、教職員の心と体の健康をの保持を視点に、それぞれの業務の量と質、作業要領、必要性、他業務との関連から見直し処を探っていきたい。AIの活用による業務時間の短縮化が示されている昨今である。アナログとデジタルを上手に活用した仕事の進め方、自身の授業改善を各自においても研修、研鑽を進めスキルアップにチャレンジしていきましょう。

☆「取組の実際と現状」、「今後の取組」の記述からは、先生方の工夫、アイデア、課題、困り感、そして、今後への思い願いが見えてきます。私的観点であるが、取り入れ継続してみてもどうかと思うことを青色、皆さんで知恵を出し合い手立てを講じたいことを赤色で文字色を変えています。青色については、学団、学年で検討してみたい。赤色については、主任を軸に分掌会議で全校で足並みそろえて取り組む手立て等アイデアを出し合い、次回職員会議で提案してほしい。

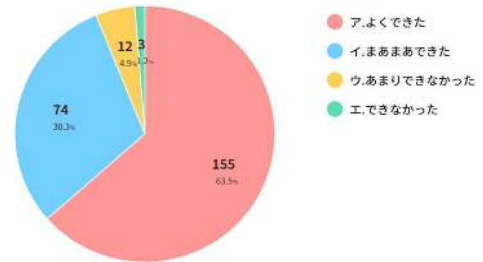
## R7 1学期 まなびフェスト振り返り（児童）

Q1 自分（じぶん）や友達（ともだち）のよいところを見つけたり、がんばりを応援（おうえん）したりすることができましたか

棒グラフ 円グラフ

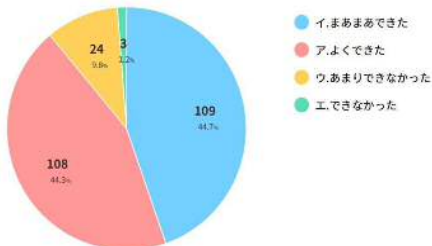


棒グラフ 円グラフ

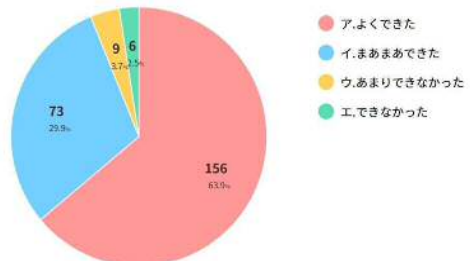


Q3 よいこと・わるいことを考（かんが）え やくそく・きまりを守（まも）って行動（こうどう）することができましたか

棒グラフ 円グラフ

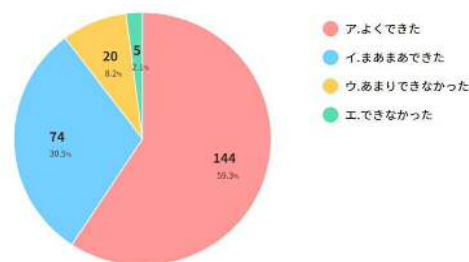


棒グラフ 円グラフ

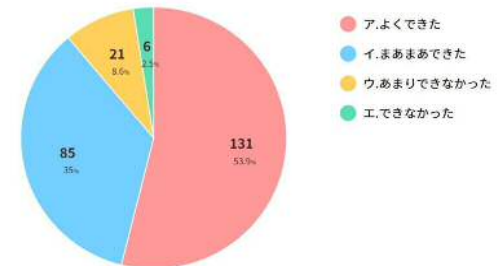


Q5 毎日（まいにち）家庭学習（かていがくしゅう）をすることができましたか 学年×10分以上

棒グラフ 円グラフ

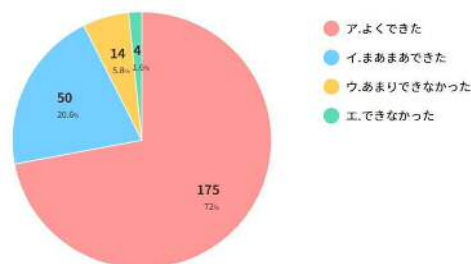


棒グラフ 円グラフ

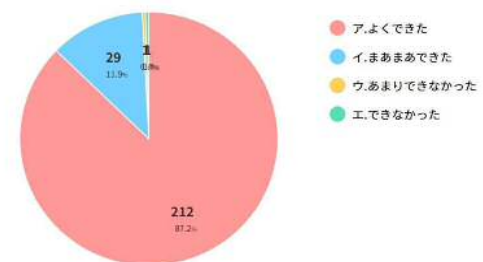


Q7 元気（げんき）にあそんだり運動（うんどう）したりすることができましたか

棒グラフ 円グラフ

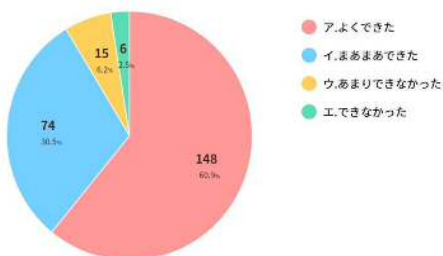


棒グラフ 円グラフ



Q9 安全（あんぜん）に気（き）をつけて学校（がっこう）で生活（せいかつ）することができましたか

棒グラフ 円グラフ



◎どの項目も肯定的評価が高い。殆どの項目が90%超えである。  
⇒自分や友達の良いところを見つけている、あいさつや返事を元気にしている、安全に気を付けていると考えている。自己肯定感が高い。

●Q3「よくできた」と「まあまあできた」がほぼ同じ。「あまりできなかった」も設問中最も多い。

⇒善悪の判断・行動については、2学期も見守り・指導を意識する必要がある。